

人文学部 後期日程 令和5年度入学試験「小論文」

解答および出題意図



問1 解答例

民主政治の根本は資格の有無に関わらず市民なら誰もが政治に参加でき、憲法は誰でも国会議員になれることを定めているのに、実際には高学歴の議員が国会の大多数を占め、彼らが政治を独占している。(92文字)

問2 解答例

西ヨーロッパの先進国に、人種、宗教、身分の差別、性差や貧富の差と同様に、学歴の格差が存在することは明らかである。デモクラシーの理想に反して政治すなわち国会が高学歴議員たちに独占され、学歴の格差が人種や宗教の違いや身分と貧富の差や男女差別と同様に社会的な分断を民主主義社会にもたらしている。国会が高学歴の議員たちに独占されるならば、高学歴の人々に都合の良い法律が作成され、低学歴の労働者たちが社会の中で不利な状況に追い込まれ、身分や貧富の格差や性の違いによって差別が行われたのと同様に、差別が行われる。例えば、高学歴の人々は一般にグローバル化した資本主義と労働市場の中で有利であり、競争に打ち勝ち富と権力を獲得できるので、そのような政策を積極的に推進するが、低学歴の人々は同じ国際化した労働市場の中で、外国人労働者との競争を強いられ搾取される。国民は人種や宗教や身分の違いや貧富の差によって差別されてはならず、本来、高等教育は全ての人々平等に与えられるべきである。高等教育はしばしば経済的に恵まれた人々だけに与えられ、学歴の格差と貧富の差がますます増大し、社会の分断が進行する。(488文字)

【出題意図】

比較的難解な英文を読ませることによって、英文の個々の単語や文章の翻訳によって受験生の英語力を試すというよりは、総合的な知識と常識の潜在能力を発揮することができるかどうかを試す問題。受験生には、知的な英文の主要な部分が述べようとしていることをおおまかに理解し、理解の欠落する部分については自身の想像力と常識によって補い、正確かつ理論的な文章を書けることが期待されている。



問1 解答例

対人関係や場所ごとに自分を相対化し、他者とのコミュニケーションを経て形成される、いくつかのアイデンティティの集まりのこと。(62字)

【出題意図】

文章内の重要なトピックについて過不足なく情報をまとめられる能力があるかを問う。

問2 解答例

個人が自分の分人の比率をコントロールするためには、一生の大半を占めると考えられる仕事とそれ以外の生活とのワークライフバランスを保持できる社会制度が必要であると考えられる。具体的には、ベーシックインカム制度が挙げられる。ベーシックインカム制度は、性別や年齢といったものに制限されることなく、最低限の生活を送るために必要な額の現金を定期的に受け取ることのできる社会保障制度である。現在の労働に対して収入を得るという働き方では、仕事に追われて仕事の分人の比率を上げざるを得ない状況になり、家族との分人といった他の分人を生きる比率が限られてしまう。しかし、一律最低限の賃金を得ることができれば、仕事の分人のみを生きなければならないような状況には陥らず、仕事での分人以外、たとえば家庭や趣味といった他のコミュニティでの分人の比率を比較的自由に選択することができるようになるだろう。さらに、働き方自体も変化し、副業といった働き方の選択肢も増え、その分生きられる分人の数も増えるだろう。その結果、理想的な分人の比率を自らコントロールしやすくなり、人間の自由が担保されたより平等で生きやすい社会になると考える。(496字)

【出題意図】

文章内の述べられている筆者の考えを理解し、現実の社会問題に当てはめて論理的に論じる能力を問う。分人としての生き方を実現する社会や社会制度について述べるためには、分人として自由に生きられないと考えられる現在の社会や社会制度の変更、もしくは新たな社会や社会制度を設定するといった、自らの考えを記述する必要がある。世の中に対する批判的な眼に加えて、それを解決するための策を創造的に考える能力を問う。